

2009年4月15日 10:00 (ドイツ文化会館)

ドイツ研究振興協会(DFG) 日本代表部 開設記念式典

理事長 開会挨拶(案)

- ・ 5分~10分程度
- ・ 日英同時通訳が入るので日・英どちらでも可

ただいまご紹介にあずかりました科学技術振興機構 理事長の北澤です。

DFG 会長 マティアス・クライナー氏、

(Dr. Matthias Kleiner, President of DFG)

駐日ドイツ連邦共和国大使 ハンス=ヨアヒム デア氏、

(Mr. Hans-Joachim Daerr)

DFG 日本代表部 代表 イリス・ヴィーツォレック氏

(Dr. Iris Wiczorek, Director of DFG Office Japan)

ご出席の皆様、

本日、DFG(German Research Foundation)の日本代表部が開設されることを心よりお喜び申し上げます。このおめでたい席で祝辞を述べさせていただけることを非常に光栄に思います。

私が理事長を務めます JST は、日本における科学技術政策の推進において中核的な役割を担う独立行政法人であり、政府が重要と定めた分野の研究を推進するというトップ・ダウン型のファンディングエージェンシーでそのミッションには基礎研究支援による新技術の創出の他に産学連携による企業の新技術開発、科学技術情報の流通促進、科学技術に関する理解増進活動、さらに研究協力・共同研究を含む研究開発に係る協力支援があります。

JST とDFGとは「戦略的国際科学技術協力推進事業(研究協力型)」を2006年以降共同実施していますが、これは2002年の第18回日独科学技術合同委員会において科学技術分野における両国の協力発展が提言されたことを契機としております。JSTは現時点で18カ国と戦略国際事業を実施していますが、DFG は我々にとって非常に早い時期からのパートナーと言えます。この事業では、日独共にトップレベル

の研究が行われている「ナノエレクトロニクス」分野において、両国の研究者が共同実施する研究協力課題をJSTとDFGの双方から支援するほか、JSTとDFGの共催で当該分野におけるWSを開催してきております。支援課題数は過去2回の公募で16件、ワークショップへの参加者は3回で100名を越えるまでになりました。これまでとても優れた研究協力課題を支援してきていると自負しておりますが、ワークショップという場を提供することによっても両国の研究者同士のネットワーク構築に役立っているものと思っております。これもひとえに、JSTのパートナーであるDFG、第一回のワークショップにおいてご挨拶いただいたアネット・シャバーン連邦教育研究大臣ほか、各方面からの支援の賜物とお礼申し上げます。

DFG とはこのように研究者間の協力を促進するだけでなく、職員同士の交流も盛んです。2005年にはJSTからのPO制度研修生を受け入れてくださったほか、昨年DFGが各国ファンディングエイジェンシー向けに開催された「DFG Information Week」にJSTから参加させていただきました。またJSTの本部にもたびたびDFGの役職員をお迎えしています。DFGとJSTのこのような良好な関係を受け、昨年6月、フリーダ

一・マイヤークラマードイツ連邦教育研究省事務次官が(当時)林文部科学審議官を訪問し、現在の研究協力を主眼としたプログラムよりも大規模な共同研究を実施したいとの提案がありました。日本側でもドイツとそのような協力を行いたいとの強い意向があった結果、本日、「ナノテクノロジー」分野における、「戦略国際事業(共同研究型)」実施に向けた覚書を締結する運びとなりました。この新しい事業は日独双方の研究者に共同研究への大きなインセンティブを与えることを期待しております。また、日独双方で優秀な人材を有するナノテクノロジー分野において大規模な共同研究を行うことは、両国の科学技術力の向上に貢献するとともに、両国研究者の競争と協調のもとで、国内だけの研究で得られるもの以上の科学技術面での進展があるものと確信しております。またこのような日独間の科学技術協力は持続可能な社会の実現のための研究開発にも寄与するものと期待しております。

こうした日独の科学技術協力拡大と軌を一にして、DFG の日本代表部が開所されることを大変喜ばしく思っております。今後も両国で協力して日独の研究協力が一層拡充されていくことを期待しております。

ありがとうございました。

(了)